

6.13 水資源

6.13.1 水利用

(1) 予測及び評価の結果

1) 施設の供用

① 施設の稼働

A) 予測

a) 予測地域

対象事業実施区域とした。

b) 予測対象時期

予測対象時期は、施設の稼働が定常的な状態となる時期とした。

c) 予測手法

対象事業の実施による水の利用形態を把握して、使用料及びその削減の程度を予測した。

d) 予測の結果

本事業では復水器を冷却する必要があるため、当初計画していた水冷却方式では、工業用水の供給を受け、1日の水利用量は6,500 m³/日を予定していた。しかしながら、対象事業実施区域の位置する香川県では、過去に渇水をたびたび経験しており、近年は渇水が頻発化・深刻化する傾向にある。

そのため、水利用の少ない空気冷却式の施設を採用することにし、1日の水利用量を300 m³/日に抑え、水利用量を約95%削減した。

B) 評価の結果

a) 環境影響の回避・低減に係る評価

施設の稼働に伴う水利用量を削減するため、以下の措置を講じる。

- ・復水器の冷却方式は、水冷却方式ではなく、空気冷却方式とする。これにより、水利用量を大きく削減することとした。

これらの措置を講じることにより、施設の稼働に伴う水利用による環境影響は実行可能な範囲内で低減されていると評価する。